神の目に、モーセは三一の神をもって燃えるいばらやぶでした。わたしたちはみなモーセであり、団体のいばらやぶです。今日召会はまだ 宝石では無く、わたしたちはいばらやぶが造り変えの過程にあることゆえに主を賛美します。神の究極の目標は住む所を得ることです。こ れは、神の永遠の定められた御旨が彼の住まいを建造することであることを意味します。創世記において神の家の啓示がありますが、実際 的な建造はありません。出エジプト記の終わりにおいて、神は幕屋の中に住みました。神の贖いゆえに、創世記第3章の締め出す炎は、出 エジプト記第3章で訪れ内住する炎となりました。

真理要点

経験適用

1. 出エジプト記第 3 章の燃え 1 るいばらやぶが個人ではな く、団体の民であることを説

明して下さい。 2. 申命記第 33 章 16 節で、モ ーセは神がいばらやぶの中に 住まわれた方としての神につ いて語っています。これには どのような霊的な意義があり ますか?

1. 出エジプト記第3章の燃えるいばらやぶは、個人としてのモーセだけでなく、団体の実体としてのイスラエルの子 たちをも指しています。神の民イスラエルの子たちは、弱い者も強い者も含んでいました。モーセは神の団体の民の 一人にすぎませんでした。主にとって、第3章の燃えるいばらやぶは個人だけでなく、団体の民でもありました。個 人として、わたしたちはみな今日のモーセです。しかしわたしたちはまた、団体のいばらやぶとしての召会の一部分 でもあります。

2. わたしたちは主の御前で正しい霊を持っているときはいつでも、自分がいばらやぶであることを知ります。私たち の年々の美徳でさえ「いばら」であることを知ります。今日、召会には依然として「いばら」があり、召会はまだ宝 石ではありません。それにもかかわらず、わたしたちは造り変えの過程を経過していることのゆえに、主を賛美しま す。いばらやぶが今日、地上で神の住まいとなり得るとは何とすばらしいことでしょう!

1. 神の住まいがいばらやぶか 2 ら幕屋へと造り変えられてい く過程を説明して下さい。

> 2. 天然の命において強く活発 な人モーセが、どのようにし て神の人になることが出来た のでしょうか?

1. 最初、神の住まいは贖われたいばらやぶでしたが、このいばらやぶは徐々に聖別され、造り変えられ、同形化さ れ、さらには栄光化されていきます。幕屋は造り変えの説明です。幕屋には、金で覆われたアカシア材があり、また 金の糸で刺繍された亜麻布もありました。アカシア材も亜麻布も人性を表徴し、金は神性を表徴します。出エジプト 記第 3 章において、神の住まいはいばらやぶでしたが、出エジプト記第 40 章において、彼の住まいは、神性によっ て覆われ神性をもって織り込まれた人性から造られた幕屋でした。

2. モーセが山の上で四十日間主と共にいた後、彼の顔は輝いていました。それは、神の聖なる火の炎が彼の中へと燃 え込んだからです。モーセは火の中へと投げ込まれる鋼鉄のようであり、火がその本質の中へと燃え込んで鋼鉄が輝 くまで、そこに置かれていました。モーセが山頂にいたとき、神の栄光は彼の存在の中へと燃え込みました。彼が山 から下ったとき、彼の顔は輝いていました。それは、モーセが造り変えられ、最終的に神の人になったことの確かな 表示でした。

1. パウロが召された時にも原 3 則として三一の神が彼の中で H 燃えていたことを経験したこ とを、説明して下さい。 2. パウロの書簡の中で、もモ ーセが見たいばらやぶのビジ ョンをまた見ることができる ことを説明して下さい。

1. パウロは召されたとき、同じビジョンを見ました。彼は、贖われた者たちの内側に燃えている三一の神を見まし た。この神聖な燃焼を通して、聖なる火はいばらやぶと一であり、いばらやぶは三一の神ご自身である火と一でし た。今日、御子の中の父なる神とその霊としての御子は、火としてわたしたちの上に下って来られました。この聖な る火、この神聖な燃焼がわたしたちを捕らえました。今やわたしたちは、三一の神をもって燃えているいばらやぶの 一部分です。

2. エペソ人への手紙第1章と第3章には、神聖なエコノミーが、すなわち、三一の神が彼の贖われた民の中へと分与 されて、彼らが三一の神の表現となることがあります。この分与が、今日の燃えるいばらやぶとしての召会を生み出 します。わたしはこの燃えるやぶの一部分であることを、何と喜ぶことでしょう!わたしたちはこのビジョン、すな わち今日の召会における神のエコノミーのビジョンを見ました。

1. 使徒行伝第 2 章の注ぎ出さ れた霊が火の舌で象徴されて H いることと、ルカ第 12 章 49 節の火とはどのような関係が ありますか?

1. 使徒行伝第2章3節と4節は、注ぎ出された霊が火の舌で象徴されていることを示します。火としてのその霊のこ の注ぎ出しは、ルカによる福音書第12章49節で主イエスによって予言されました。「わたしが来たのは、地上に火 を投じるためである.それがすでに燃え上がっていたならと、わたしはどんなに願っていることか!」。ペンテコス テの日に、約束された霊が、のろいを取り除いたキリストの贖いを通して与えられ、火の形で弟子たちの上に臨みま した。この火は神の訪れの炎です。

2. 創世記第3章と出エジプト 記第3章の間の関係を説明し て下さい。

2. 創世記第3章で、堕落した人は、いばらで表徴されるのろいの下にありました。そこでは、火の炎はこの堕落した 人を命の木としての神から締め出しました。しかしながら、出エジプト記第3章では、いばらと火は一です。火の炎 はいばらやぶを訪れ、その中に住みます。これは、キリストの贖いを通して、神ご自身、その聖がご自身の臨在から わたしたちを訪れ、わたしたちと共にとどまり、さらにはわたしたちの中に住むことができることを示します。

1. 召会をどのように見るな 5 ら、私たちは祝福あるいはの 日 ろいを得ますか?

1. 召会は低く、死んでいると言ってはなりません。あなたはこのことを言えば言うほど、ますます自分自身をのろい の下に置くようになります。しかしながら、もしあなたが召会生活のゆえに主を賛美し、それについて良く言うな ら、自分自身を神の祝福の下に置くようになります。召会は貧しく、低く、死んでいると言った者はみな、のろいの 下にありました。召会について積極的に語り、召会は愛らしく、それは神の家であると宣言する人たちは祝福を受け

2. 召会が神の目に愛らしいと はどういうことですか?

2. 一方で、わたしたちはなおもいばらやぶです。もう一方で、贖い、聖別、造り変え、建造を通して、わたしたち は神の住まいです。あなたは、召会は美しくないと思うかもしれませんが、神にとってそれは愛らしいのです。あな たはその欠点のゆえに召会を批判するかもしれませんが、神は彼の民の中に罪科を見ないと言われます。

6 1. コリントに在る召会には多 くの困難がありましたが、使 日 徒はなおもそれを「神の召 会」と呼んだのは何故です か?

1. 神の召会! ケパの、アポロの、パウロの、あるいはどんな実行や教理の召会でもなく、神の召会です。コリント に在る召会には分裂、罪、混乱、賜物の乱用、異端的な教えがすべてあったにもかかわらず、使徒はなおもそれを 「神の召会」と呼びました。なぜなら、集められた信者たちを神の召会とする神聖で霊的な本質が、実際にそこにあ ったからです。使徒によるそのような霊的な呼び名は、彼が霊的な視力で、キリストにある召会を見ていたことに基 づいていました

2 いげらやぶの中の神 モー セを召した方は復活の神であ ることを説明して下さい。

2. マルコによる福音書第12章18節から27節で主は不信のサドカイ人に、いばらやぶに関する聖書の箇所を指摘し ました。彼は死んだ者の神ではなく、生きている者の神、復活の神です。わたしたちは復活の中にある、わたしたち の神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神だからであると宣言する必要があります。わたし自身にあって、わ たしは肉の中にあり、天然の命の中にありますが、わたしの神にあって、わたしは復活の中にいます。

ح め

ま 神はモーセを召し出し燃えるいばらやぶのビジョンを見せました。パウロもまた聖なる火が彼の中で燃えているのを見て、経験し、 最終的にキリストの捕虜と成りました。今日わたしたちはこのビジョンを見、わたしたちの中で火を燃やし続けさせ、聖徒たちとと もに団体のいばらやぶとなる必要があります。今、わたしたちはいばらやぶから宝石へと造り変えられる過程の中にいます。わたし たちは神の目によって召会の中の聖徒の光景を見る必要があります。そうでなければ、容易に自分の目で見てしまいます。わたした ちは信仰を通しての神の永遠の目を持つように訓練し、召会が神の目に愛らしいものであることを見る必要があります。

出エジプト記の結晶の学び 第4週 団体のいばらやぶ

出エジプト記の結晶の学び 第4週 団体のいばらやぶ